



Comms Intern Report 2019

International Monetary Fund Regional Office for Asia and the Pacific

国際通貨基金（IMF）アジア太平洋地域事務所（OAP）で暑い夏を過ごした 2019 年度 広報インターン 2 人の経験をご紹介します！



2019 年度 広報インターン

阿部 莉沙穂

国際基督教大学 卒業
東京大学公共政策大学院 在学中

(写真左)

2019 年度 広報インターン

DANG Siyan (党 思妍)

中国出身
外交学院（中国） 卒業
早稲田大学アジア太平洋研究科 在学中

(写真右)



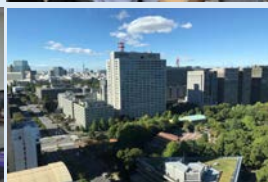
2019 年度の広報インターン・スケジュール

6/9	6/24	7/2	7/8	7/22	9/28-29	9/30
応募〆切	筆記試験	面接	採用通知	インターン開始	グローバルフェスタ	インターン終了



オフィスってこんなところ

IMF-OAP は 1997 年に、東京都千代田区に設立されました。2017 年に改装されたばかりの新しいオフィスは、見晴らしもよく、開放的な空間が広がっています。



グローバルフェスタ 2019 に出席

グローバルフェスタとは？

「グローバルフェスタ」は、国際協力活動や SDGs に取り組む国際機関や NGO など、様々な団体が集まる日本最大級の国際協力イベントです。出展団体による活動報告や多数のゲストが出演するステージなど、楽しみながら国際協力について知ることができます。2019 年は、9 月 28 日～29 日の二日間に渡って、お台場で開催されました。

IMF をより多くの方に知ってもらえるよう、「通貨マッピングゲーム」「IMF クイズ」「DataMapper 体験」という 3 つのミニゲームを用意しました。参加いただいた方々には、IMF オリジナルグッズをプレゼントしました。



インターンが作成した広報資料やグッズの一部



2019 年度 広報インターンにインタビュー



Q1. ご自身の専門と志望動機について教えてください。

Lisaho

学部時代から、国際関係学を主専攻、メディア研究を副専攻として学んできました。特に日本の国連外交や広報文化外交に関心があるため、国際機関の広報について学びたいと思い応募しました。また米国留学や日中韓ユースサミットへの参加経験から、「アジアの中の日本」を意識したことから、IMFのアジア太平洋地域の窓口である OAP の活動について、理解を深めたいと思ったことも志望理由の一つです。

Siyan

中国の外交学院で学んでいた学部時代から、一帯一路サミット 2017 やボアオフォーラム 2018 といったさまざまな国際イベントに参加し、国際関係にどんどん興味を持つようになりました。現在は早稲田大学で国際関係について勉強しています。日本に来る前から、日本にある国際機関の地域事務所が気になっており、特に IMF のアジア太平洋地域事務所はずっと注目していたので、サマーインターンの採用情報を見つけると、すぐ応募しました。今度のインターンシップは私にとって貴重な経験でした。

Q2. 応募書類はどのように準備しましたか？

Lisaho

2019 年度は日本語か英語の履歴書、どちらか一方を提出する形式だったので、私は英文履歴書を提出しました。フォーマットの指定がなかったため、志望動機や学歴以外にも、過去のインターン経験や課外活動歴を明記し、各活動内容とその経験を IMF-OAP でのインターンにどう活かせるのかが伝わるよう意識しながら書きました。

Siyan

私は留学生なので、語学力を証明するため特別に IELTS 成績と日本語能力試験の成績を記入しました。そして、英語の履歴書に、今までの学歴やインターン経験とその経験から学んだことを中心に書き、IMF-OAP の広報インターンに相応しいと思う資質を強調して述べました。そして面接の前に、二つの推薦状を準備しておきました。

Q3. 筆記試験はどのような内容でしたか？

Lisaho

IMF-OAP が主催するイベントを SNS で PR する場合には、SNS に投稿する文面を日英両言語で作成するというものでした。イベントの詳細が記されたドキュメントがメールで送付され、一時間以内に成果物を提出するという形式でした。課されているお題はシンプルながら、イベントの詳細を素早く読み込み、必要な情報を抽出して簡潔にまとめるという作業は、中々に難しかったです。

Q4. 面接ではどのようなことを聞かれましたか？

Lisaho

インターンの志望動機や専攻、広報分野での経験などについて質問がありました。面接時間は 20 分程度で、面接言語は英語でした。始めは少々緊張しましたが、和やかな雰囲気の中で面接していただき、落ち着いて臨むことができました。

Q5. インターンの仕事内容は？

Lisaho

グローバルフェスタに向けた出展準備や、広報資料の作成・翻訳、その他アウトリーチイベントの運営補助が主な内容です。特にグローバルフェスタは、IMF-OAP としては二年ぶりの参加で、出展内容も一新するということで、展示ブースのレイアウトからミニゲームの内容企画まで、立案段階から担当させていただき、非常に貴重な経験となりました。

Siyan

グローバルフェスタへの出展準備を中心に展開しました。IMFならではのPR作戦や宣伝グッズを準備するのが主な仕事内容です。IMFに関するクイズを作り直したり、今後の広報活動にも役立つIMF/OAPに関するチラシをデザインしました。また、IMFの代表的な世界経済見通し（WEO）のデータベース検索ガイドの改訂版やデータ検索ツールDataMapperの使用マニュアルも作りしました。

Q6. インターン中、特に印象に残ったことは何ですか？

Lisaho

やはり広報の難しさ、そして面白さです。「難しいことを簡単に説明することほど難しいことはない」とは正にその通りで、IMFの活動内容と魅力をいかに発信していくのか、という点が一番難しかったです。広報資料を作成する上でも、単語が一つ違うだけで読み手に与える印象が大きく変わる中で、相手の目線に立ち、伝えるべき言葉を紡いでいく広報の奥深さと楽しさを実感しました。

Siyan

外国でインターシップをすることは初めてで、異文化環境で働くことは想像以上に難しいと思いました。広報という仕事は、外部と内部をつなぐ窓口として、情報を公衆向けに丁寧に分かりやすく説明し宣伝するものです。言葉の選択や言いまわし、説明の手順も何度も磨いてしかるべきです。その挑戦が一番印象に残っています。

Q7. インターンを通して得られたことは何ですか？

Lisaho

イベントの出展企画や資料作成など、アイデアを形にしていくプロセスに数多く携わせていただく中で、各場面において、今回の目標は何か、ターゲット層は誰か、どんな手法でアプローチするのか、費用対効果はどれ程かなど、様々な要素を多角的に検討しながら常に最適解を問う姿勢を学びました。他にも対外交渉など様々な業務を任せていただき、新しいことに絶えず挑戦していくチャレンジ精神も鍛えられました。

Siyan

WEOデータベースとDataMapperマニュアルを準備した時、経済初心者であるにもかかわらず、それらのツールを使えば私でも簡単に経済指標を検索できるんだなど、いろいろ勉強になりました。経済情報をわかりやすく世界中に伝えることはIMFの役割以外の何ものでもないと感じました。

Q8. 将来のインターン候補生に向けてメッセージをお願いします。

Lisaho

IMF-OAP インターンは、IMFの現場を内側の視点から学ぶことができる貴重な機会です。様々な経験を通して、IMFに対する理解を深められるだけでなく、IMFで活躍される「人」の魅力に触れることができる場でもあります。貴重な経験と思い出が詰まったかけがえのないひと夏になるはずです。IMFの活動や国際機関でのキャリアに関心がある方は、是非インターンシップに挑戦してみてください！

Siyan

応募する前に、まず、自分が何を追求したいのかともう一度考えてください。初出勤の日、私は上司からこのインターンシップで何を実現したいのかと聞かれました。ここ二ヶ月間というもの、この期待に応え成果を出すようさまざまな仕事をしました。優秀な仕事仲間（上司や先輩スタッフ）と一緒に自分がやりたい事に挑戦したい人は、ぜひ応募してください。

